

# 有題 無題

## 「SDGs」を考える

「持続可能な開発目標」(SDGs)という言葉をご存知だろうか。2030年までに先進国も途上国も協力してこの世からあらゆる形態の貧困をなくし、後世につなげていくことのできる未来をつくらうという世界目標だ。経済・社会・環境の三つの側面を統合的にとらえ、最近ではSDGs経営やESG投資の文脈の中で語られることも増えてきた。



SDGsが生まれた背景には、「このままでは地球がもたない」という強い危機感が背景にある。貧富の格差が広がり、経済のグローバル化の恩恵は平等には行き渡っていない。いまだに9億人が屋外で排せつし、10億人が電気のない生活を強いられている。

### 国連広報センター所長 根本 かおる



ねもと・かおる 86年(昭61)東大法卒、同年テレビ朝日入社。米コロンビア大学大学院国際関係論修士修了。96年から国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)で難民支援活動に従事。世界食糧計画(WFP)広報官、国連UNHCR協会事務局長なども歴任。13年から現職。神戸市出身。

# このままでは地球がもたない

ソーシャルメディアの発達で、腐敗や不公平のニュースは瞬く間に拡散され、格差と不満が社会を不安定化させる。紛争の数が増え、安全を求めて移動する難民・避難民の数は第2次世界大戦以降最高の水準になり、移民・難民への偏見や不寛容、排外主義はあらゆる地域で広がっているのが実情だ。

さらに、今世紀に入っ て気候変動が「人類の存亡を左右する脅威」として

このままでは、この美しい地球を将来につないでいけないう強い危機感のもと生まれたSDGsは極めて野心的で、国も企業もNPOも個人も、すべてのアクターが行動を起こさなければならぬ。だからこそ私はいろいろな機会をとらえて「SDGsを自分事に」と強調している。

SDGsの実践には、「ザ・正解」というものはない。しかし、SDGsが分野を越えた共通言語となり、結びつきが生まれやすくなるからであろう。この連載では、SDGsを通じたさまざまな出会いについて伝えていきたい。